
東区の活動事例



東区

交通安全・防犯住民決起大会



【東桜学区】

■世帯数：5,478 世帯

■人 □：8,482 人

■面積：0.732 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・東桜小学校において「交通安全・防犯住民決起大会」を開催。決起大会当日は全校出校日とし、全児童が参加。東区住民にも参加を呼びかけ、約 350 人が参加。
- ・大会宣言（宣言文の朗読）を、児童会代表、交通少年団代表、母親代表が行う。
- ・1 学期中に、決起大会に向けての交通安全・防犯に関するポスター・習字の制作を依頼し、決起大会において優秀作品制作者の表彰を行う。
- ・安全・防犯・交通安全に関する寸劇の披露。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧と、交通安全推進協議会総会で参加者に開催案内を配布

【アピールポイント】

小学校の協力により、全児童が参加できる形式をとっていること。大人も子どもも全てが一緒、交通安全・防犯について考える機会になっていること。

2 きっかけ、背景

少子高齢化が進む中、“地域子どもたちは、自分たちの地域で育てよう、見守ろう”という機運が高まり、次代を担う子どもたちの交通安全・防犯意識向上を目指して大会の開催を決めた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、PTA、学区交通安全推進協議会・学区防犯連合会
計約15人

(2) 他団体との協力

東桜小学校

(3) 運営協力

組回覧で各町内への呼びかけを行う。小学校を通じて若い世代の大会参加を促す。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・住民の交通安全・防犯意識の向上。

(2) 苦労した点

- ・住民の理解を得ることに苦労したが、学区連絡協議会等を通して、活動の中心団体だけでなく、学区全体の事業としての位置づけを意識できた。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動の継続と、他団体との協力が課題。
- ・大会の開催時期が限られるので、室内で行い、さらに興味関心を引くアトラクションを工夫したい。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・大人の地域住民だけの行事ではなく、次世代を担う小学校児童が参加できる形式の会を実施していくことが大切である。

4 実施のスケジュール

H24年 学区交通安全推進協議会総会で
4月 決起大会開催を決定

5月 ・小学校に習字等作品制作依頼
・決起大会の運営、実施内容検討

6月 ・学区連絡協議会で決起大会開催
案内周知 組回覧決定
・東区役所・東警察署等関係諸機
関へ出席依頼

7月 ・小学校に表彰者の選定依頼、大
会準備
・「学区交通安全・防犯住民決起
大会」



高齢者ふれあい給食とワイワイ事業



【山吹学区】

■世帯数：5,160 世帯

■人 口：10,049 人

■面 積：0.928km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・対象者の家庭を回り、開催を案内している。
- ・必要に応じて、専門家に依頼してアトラクションを実施する。
- ・学校、公的機関、園児児童の協力を得て行事を実施している。
- ・費用は一部参加者負担、学区と社会福祉協議会からの助成金で会を運営している。
- ・会場は山吹コミュニティセンターおよび山吹小学校。
- ・参加者は延べ約 470 人。

①「高齢者ふれあい給食会」

一人暮らしの高齢者を対象に年 4 回開催。

②「ワイワイ事業」

高齢者世帯を対象に年 4 回開催。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布

【アピールポイント】

ワイワイ事業を積極的に行っている。アトラクションのため、主催者も勉強し、知識を高めているほか、幅広い講師たちとの繋がりができた。

2 きっかけ、背景

昭和 61 年に福祉推進協議会を立ち上げてから実施。一人暮らし高齢者のふれあい給食及び高齢者世帯を対象とするワイワイ事業を実施。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生児童委員、保健委員、PTA、
女性団体・女性会、子ども会、老人
クラブ、スポーツ推進委員
計約 100 人

(2) 他団体との協力

山吹小学校、手話もみじ、警察、
消防署、区役所、区社会福祉協議会

(3) 運営協力

学区連絡協議会において運営者や
参加者を呼びかけている。

4 実施のスケジュール

S61 年 9 月 山吹福祉推進協議会を設立



H17 年 4 月 ワイワイ事業を開始
以降は年間計画を立て、ふれ
あい給食会は年 4 回、ワイワ
イ事業は年 4 回実施してい
る。



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 参加者の増加、住民意識の高まり、住民間の交流の深まり。
- 一人暮らし高齢者への配慮は多くあるが、高齢者世帯に対してはあまりないので、とても喜ばれ、福祉が一步前進した。

(2) 苦労した点

- 参加者を確保することや、住民の理解を得ること、他団体との協力を苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- 活動の継続が課題。参加者の自己負担増加は、事業継続の危機につながる。
- 高齢者人口が増加すると、対応する世話係の確保が問題となる。ボランティア精神をいかに育むかが問題。

(4) メッセージ・アドバイス

- 高齢者世帯へのふれあいの場も考慮してみてもいいでしょうか。

盆踊り大会



【東白壁学区】

■世帯数：2,932 世帯

■人 □：6,179 人

■面 積：0.581 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・学区内の世代間交流事業として、盆踊り大会を開催。
- ・東白壁小学校を会場とし、参加者数は約 500 人
- ・実行委員会により企画・運営している。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧および掲示板への掲示

【アピールポイント】

雨天時でも体育館で実施していること。

2 きっかけ、背景

数年前までは、学区をあげての主要行事がなかったため、学区内の世代間交流事業として、平成 22 年に企画された。平成 23 年から本格実施している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、老人クラブ、スポーツ推進委員、福祉推進協議会・福祉ボランティア計約80人

(2) 他団体との協力

学区福祉推進協議会

(3) 運営協力

学区連絡協議会の関係者全員に参加してもらえるよう、声かけ等を実施している。

4 実施のスケジュール

H22年
4月 盆踊り大会企画会議



平成23年の本格実施に向けて、東白壁小学校体育館にて試験的に開催



H23年
7月 学区盆踊り大会として本格開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民間の交流が深まった。また、小学生との交流等、地域の連帯感が深まっている。

(2) 苦労した点

活動の担い手の不足。

(3) 今後の課題・展望

今後の活動の担い手の育成が課題である。



東区 葵学区

住民交流

健康・福祉

青少年育成

環境・美化

防犯・交通安全

防 災

歴史・文化・芸術

その他

「名古屋市シルバーパワーを活用した地域力再生事業」

あなたの力で葵学区をより住みやすいまちに！



【葵学区】

■世帯数：5,231 世帯

■人 口：8,309 人

■面 積：0.829k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

平成 20 年度から名古屋市が実施する「名古屋市シルバーパワーを活用した地域力再生事業」を平成 24 年度より実施。活動へのボランティアとして約 60 人が登録。

①「ふれあい活動」

- ・給食会、子育てサロン、清掃活動、もちつき大会等

②「困りごとお助け活動」

- ・ゴミ出し、資源回収の手伝い、電球の取替等
- ・地域福祉活動推進員が週 2 回、午前中に困りごとの相談、依頼を受け付けている。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布および回覧

【アピールポイント】

担い手として団塊の世代を始めとするシルバーパワー世代の地域福祉活動への参加を促進し、併せて将来、地域で孤立する団塊世代、シルバー世代がいないようにする。

2 きっかけ、背景

高齢者には行政や業者に頼むほどでもない「ちょっとした困りごと」があると思い、こうした支え合いの仕組みがあると気軽に頼める高齢者への個別支援事業として発足。また、ボランティアに登録した人はポイント制度により、ボランティアグループに寄付することができ、二度貢献する事ができる。この活動を通じて潜在的な地域課題の掘り起こしにつながった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員
計約 20 人

(2) 他団体との協力

学区連絡協議会、区社会福祉協議会

(3) 運営協力

事業の継続のため、随時ボランティアを募集していく。

4 実施のスケジュール

H23 年 学区連絡協議会においてシルバー
9月 パワー事業説明会

12月 活用連絡会議 事業実施を決定

H24 年 活用連絡会議 地域福祉活動推進
1月 委員の選任

2月 「葵おたすけボランティア」第1
回募集

4月 「葵おたすけボランティア」第2
回募集

7月 活用連絡会議において 今後の進
め方、課題などの話し合い

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 活動を通じて、助け合いについての住民の意識が高まっている。
- ・ ボランティアは 50 歳以上限定にも関わらず多数の登録者（60 人）があり、これ以外の活動の担い手の広がりにも今後期待ができる。

(2) 苦労した点

- ・ 学区連絡協議会での説明時は、先駆的な取組のため、住民の理解を得るのに時間がかかった。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動内容の拡充と、利用対象者の拡大が今後の課題。素晴らしい仕組みなので時間をかけ大事に育てていく。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 継続するものにするには助ける側と助けられる側という立場ではなく、持ちつ持たれつの支え合い関係をともに楽しむという姿勢が大事。



つついっ子見守り隊



【筒井学区】

■世帯数：4,007 世帯

■人 口：7,972 人

■面 積：0.742 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

個人による活動

学校まで健康づくりを兼ねた児童の送迎などを、当番を決めずにできる人ができる時に行う。

集団による活動

①巡回見守り

- ・毎月第3木曜日に児童と一緒に巡回パトロールを行う。
- ・犯行を起こしやすい環境（危険箇所）の点検、およびその周辺で不審者の見張りを行う。

②拠点見守り

- ・犯行を抑制するため、児童の登下校時間に合わせて、自宅周辺や街角で、犬の散歩や庭の水やりなど、日常の活動を行いながら児童の周辺を見守る。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧と、自治会長からの呼びかけ

【アピールポイント】

活動を通じて、地域の様々な犯罪（ひったくり・家屋侵入・放火など）の防止に役立っている。また、近所の方とのふれあいや、会話の機会も増えて連帯感も強まり、防災面でも助け合いの機運が生じ、安心して暮らせるまちづくりに大きな役割を果たしている。

2 きっかけ、背景

事業検討当時、他府県で登下校中の児童が誘拐される凶悪事件が発生し、当学

区での児童に対する安全対策を調査したところ、手薄な事が判明した。学区連絡協議会で小学校へ防犯ブザーを贈呈、子どもの家設置者との意見交換を行うとともに、大人の監視によって犯行をためらう状況を作ることが大事と、グループを結成した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、地域住民
計約 170 人

(2) 他団体との協力

学区内の各種団体

(3) 運営協力

協力者については、自治会長に補充を依頼。

4 実施のスケジュール

H17 年 連絡協議会定例会に子どもの安全確保の取組の是非を提案
12 月

H18 年
2 月
・児童の登下校安全対策活動の骨子を定例会に提示
・筒井小学校長に活動の内容を説明
・グループの名称、識別用品の帽子、ネームプレートたすき、腕章のデザイン決定

3 月
・協力者の募集を組回覧で行う
・見守り隊結成式について区役所、警察署、学校と協議・調整

6 月
14 日に筒井小で結団式。協力者 100 人参加 4ブロックに分けパトロール

5 成果と課題

(1) 成果・効果

活動に参加する事により、協力者の間に交流が深まり、地域の連帯感が醸成されつつある。

(2) 苦労した点

定例会での検討段階では、「責任を負いたくない」、「警察の仕事ではないか」、「危険である」、「仕事があってできない」、などの反対があったが、活動は拘束しないこと、学区連絡協議会の事業とすることを示し、了解を得た。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続が課題。児童の在学中は、その保護者等が協力者になっているが、卒業後は関心がうすれ、自然に活動に不参加となるのが悩みである。

(4) メッセージ・アドバイス

学区の安心・安全なまちづくりのひとつに位置づけ、学区連絡協議会の事業とすることにより実施することができた。必要経費の執行も直接行う事ができる。PTA や子ども会に任せようとしたが、地域の一般住民に協力を求めるには区政協力委員、あるいは自治会長の立場を利用した方が実効性がある。

敬老会



【旭丘学区】

■世帯数：4,363 世帯

■人 口：8,781 人

■面 積：0.756 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・旭丘小学校体育館を会場に「敬老会」を年に 1 回開催。参加者数は約 1,400 人。
- ・地域内の 70 歳以上の高齢者を対象に名簿を作成。
- ・敬老会の役割分担、記念品の内容などを準備委員会で決定。
- ・事前に記念品（小学生の手作りうちわ、女性会作成の小物手芸）の手配、アトラクション（小学生の器楽・小学生と女性会の踊り）の依頼を行う。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、案内状の配布

【アピールポイント】

高齢者同士及び地域の幅広い年齢層間のコミュニケーションづくりに役立っている。また、高齢者の楽しみの場になっている。

2 きっかけ、背景

高齢化と核家族化が進み、一人暮らしの高齢者が増えた。高齢者のふれあいの場が必要となり、高齢者と小学生の世代を超えたコミュニケーションの場が必要であるとの認識から敬老会を開催している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、女性団体・女性会、
小学校のサッカー部、野球部、教職員（当日の運営を補助）

計約43人

(2) 他団体との協力

各自治会、社会福祉協議会、区役所

(3) 運営協力

各自治会、社会福祉協議会、区役所

4 実施のスケジュール

H23年
6月 名簿づくり 実行委員会開催



6月～
8月 プレゼント小物手芸づくり



8月 70歳以上高齢者出欠の確認



9月 前日は敬老会準備
敬老会開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・住民間の交流の深まり。地域の人たちとのつながり、助け合う喜び。これからも活動して行きたいと思う。

(2) 苦労した点

- ・欠席者には記念品を自宅まで届けるが、留守宅が多くて苦慮した。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動の継続、担い手の世代交代が課題。行事のマナー化を防ぎ、後継者を育成し、活動を継続していきたい。
- ・高齢者の参加率の向上。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・一人暮らしの高齢者に喜ばれることを考えて、活動することが大切だと思う。



明倫学区体育祭



【明倫学区】

■世帯数：2,639 世帯

■人 口：5,567 人

■面 積：0.472 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・明倫小学校校庭を会場に、町内対抗競技を中心とした体育祭を開催。
- ・各町から選ばれた 200 余名の実行委員が係分担して運営している。
- ・延べ参加者数は約 1,500 人。多くの参加者は昼休みに昼食をとりながらコミュニケーションをはかっている。

【住民への PR 方法】

プログラムの各戸配布

【アピールポイント】

各町の自治会長及び体育委員が中心になって、実行委員・町内対抗競技の選手を苦勞して探してもらっている。そうした努力が自町内の人心掌握につながっている事と思う。

2 きっかけ、背景

天王祭・盆踊り・体育祭の三行事を行っており、多すぎるとの意見もあるが、数十年続く行事であり、今後も維持したいと思っている。体育祭は町内対抗競技をメイン競技としているが、一部の人口の少ない町内では出場できない種目が出て来たため、全ての町内が出場できるような種目の検討をしなければならないと思っている。

3 実施の体制

- (1) 運営メンバー
区政協力委員、町内会・自治会、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 200 人
- (2) 他団体との協力
明倫学区内の全ての各種団体
- (3) 運営協力
各町の自治会長及び体育委員が中心になって、実行委員・選手を集めている。

5 成果と課題

- (1) 成果・効果
住民間の交流が深まっている。数年前から人口が増えたこともあり、最近参加者が増えている。
- (2) 苦労した点
参加者の確保と住民の理解を得ること。新しい住民も参加してきているが、どうしても限られた人が中心になってしまう。
- (3) 今後の課題・展望
数十年続く行事であり、途絶えさせてはいけないと思っている。50 歳代の中堅クラスの育成と、集合住宅在住者の積極的参加の促進が課題である。
- (4) メッセージ・アドバイス
他学区の体育祭と比べ、実行委員が多いと思うが、そのおかげで毎年新しい人が入ってくる。中心は経験者が各係の運営を担っているが、ゆくゆくはその人たちが体育祭を担ってくれる事を願っている。

4 実施のスケジュール

H23 年 8 月 体育祭打合せ(自治会長を含む 30 人)



9 月 20 日 全体会 200 人以上が参加して、役割の確認・検討



23 日 小学校の依頼で各町のテントを張る



24 日 明倫小学校運動会 運動会終了後、体育祭の準備(100 人以上が参加)



25 日 学区体育祭(終了後 200 人で後片づけ)



12 月 2 日 体育協会反省会(体育祭関係者も参加)



避難弱者を支援する町内づくり



【矢田学区】

■世帯数：6,502 世帯

■人 口：12,514 人

■面 積：2.173 km²

平成 29 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

① 名簿の作成

- ・ 避難弱者を支援するため、矢田四丁目南の「町内避難名簿」を作成。
- ・ 町内避難名簿は 4～5 年ごとに見直す。

② 「自主防災会取組事項」の確認

- ・ 自主防災会毎に、本部・巡回班・消火班・避難誘導班などが「平常時」「判定会招集時」「警戒宣言発令時」「震災発生時」における取組事項を決定。
- ・ 取組事項は 4～5 年ごとに見直す。

③ 避難訓練

- ・ 平成 23 年より学区と町内の訓練を毎年交互に行っている。
- ・ 炊き出し訓練はプロパンガスが使用できなくなったため中止し、体育館や矢田コミュニティセンター等で人命救助を中心とした訓練に変更した。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

- ・ 町内避難名簿と参加者リストを照らし合わせる事で参加者の人員確認が早くできる。
- ・ 訓練の結果を後日「防災ニュース」として回覧している。
- ・ 炊き出し用具一式やテント、倒壊建屋からの救助用に道具類を取り揃えている。

2 きっかけ、背景

東海地震がいつ発生してもおかしくない中で、矢田四丁目南町内会の高齢化が

進み、一人では避難する事ができない人が多くなってきたため、手助けをして一人でも多く避難できるように取り組むこととした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、保健委員、消防団員、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、町内の顧問・相談役
計約 45 人

(2) 運営協力

50 歳前後の人に声をかけ、6 班ある中の 1 班に入ってもらっている。



5 成果と課題

(1) 成果・効果

訓練を通じて住民意識が高まるとともに、住民間の交流も深まった。一世帯一人ではなく、家族全員で参加するケースが増加してきた。

(2) 苦労した点

参加者の確保、活動の担い手の不足に苦労している。また、最近は新しい人が転居されてくるが、個人情報の関係で家族構成を記入してもらえない場合がある。

(3) 今後の課題・展望

現在は、矢田四丁目南が主だが、最近は訓練をする町内が増えてきたので、さらに広げていく予定。

(4) メッセージ・アドバイス

事始めに、簡単にできる「我が家は無事」の確認訓練を一度行ってみるといい。また、今後高齢者が増え続ける中、間違いなく自力では避難できない人は出てくるので、まずは少数にて立ち上げ、次に組織表を作り、その枠の中に入ってもらい第一歩を踏み出さないと、なかなか前に進まない。

4 実施のスケジュール

H14 年 4～5 月 活動できる者を 20 人ほど集め、自主防災会を立ち上げ、巡回・消火・情報・避難誘導・放出・給食を作るなどの取組事項を整理

H15 年 5 月 各班の「取組事項」を担当班で作る

H16 年 1～11 月 訓練用のチラシを作り、防災用備品の不足分を購入し、所持者リストを作り、避難時に使用する名簿を作成

H17 年 3 月 避難訓練実施
H18 年 10 月

H19 年 6 月 炊き出し用具一式購入

H20 年 6 月～ 毎年避難訓練を実施

H23 年～ 学区と町内の訓練を毎年交互に実施、現在に至る

三世代間交流会



【砂田橋学区】

■世帯数：2,975 世帯

■人 □：6,285 人

■面 積：0.490 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 20 人の実行委員からなる実行委員会を立ち上げ、世代間交流の場としての「三世代間交流会」を年に 1 回開催。
- ・ 催し物は実行委員会において内容を吟味・決定し、催し物ごとにリーダーを決定している。
- ・ 会場は砂田橋小学校体育館及び家庭科室、延べ参加者数は約 500 人。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧と、掲示板への掲示、学区連絡協議会及び自治会開催時に開催案内説明を行う。

【アピールポイント】

地域の全面協力参加体制が確立されており、例年幼児から高齢者まで楽しみ、深い交流の機会である。また、平成 24 年度で 19 回の継続開催ができています。

2 きっかけ、背景

目的は地域福祉の充実、世代間交流である。学区住民の約 80%が集合住宅に居住しており、核家族が多いこと、一人暮らしの高齢者世帯が急増していることを背景に、世代間交流を深めながら、昔からの智慧を高齢者から伝えてもらうことで地域の輪（和）を育成する事をテーマとしている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、PTA、女性団体・女性会、
子ども会、老人クラブ、スポーツ推
進委員、ボランティア、OB・OG
計約70人

(2) 他団体との協力

学区連絡協議会、福祉推進協議会、
保育園・幼稚園・小学校、地域ボラ
ンティアなど

(3) 運営協力

小学校教職員、小中学校PTA委
員、地域老人会

4 実施のスケジュール

H24年4月 福祉推進協議会「福祉担当メンバ
ー決定」

5月

- ・開催実行委員会開催「実行委員
長選出」
- ・第1回実行委員会開催「催し物
案、吟味決定」催し物ごとにリ
ーダーを決定、概要予算決定

6月

- ・第2回実行委員会開催「準備状
況把握確認」資料作り・渉外・
借用依頼
- ・催し物ごとに準備推進

6月21日 開催準備実行委員・協力者35人
で催し物の「試し実施」

6月22日 三世代交流会 開催
終了後、反省会

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・参加者が増加しているほか、住民の意識が高まっており、住民間の交流が深まっている。
- ・少子化の影響か、交流ふれあいの場として好評。
- ・催し物ごとに責任分担が確立し、相互の競いもあり工夫された催し物が充実。

(2) 苦労した点

- ・小学校と連携して平日に開催するため、現役世代の参画が少なく、高齢世代が運営主体であること。
- ・担い手の確保が難しい。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動の継続のために、催し物の企画力が大切。
- ・担い手の世代交代が課題だが、体験してもらうことで育成できないか。
- ・活動資金の確保。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・三世代交流会は各世代のふれあい交流の場として重要な役割を担うイベントです。

